

令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

八重山地域における環境に配慮した森林施業に係る意見交換

7月4日(金)

八重山地域は、本島北部地域に次ぐ森林面積を有し、健全なリュウキュウマツ林が成林しており、森林資源の循環利用による持続可能な森林・林業の推進を目指している。一方で、石垣島や西表島の森林部分の一部は、国立公園に指定され、近年の環境意識の高まりも受け、森林施業と自然環境保全の両立は八重山地域において重要な課題であると認識している。

そこで、環境省石垣自然保護官事務所を訪ね、八重山地域の森林域における希少野生動植物の情報収集や森林施業を行う上での有効な環境配慮事項等について意見交換を行った。その内容について、着目する希少種毎に以下に示す。

① カンムリワシ：特別天然記念物(国)、国内希少野生動植物種、絶滅危惧ⅠA類

固有亜種で生息地・推定生息数は、石垣島(110羽)、西表島(90羽)。生息域は森林域(広葉樹林、松林は特に問わない)で、つがいでナワバリ(約1km四方)を持ち、餌場として特に水田が重要。石垣島では、オモト岳、ヤラブ岳、バナナ岳から名蔵一帯、野底近辺で生息数が多く、伊原間・平久保に関しては、森林はあるものの餌場が少ないことから、前述した地域と比較し個体数は多くない。近年、ロードキル、水田の耕作放棄、開発による生息域の減少等により状況は逼迫しているものの、生息数の推移は辛うじて現状を維持できているが、予断を許さない状況である。林業における環境配慮事項としては、4~8月にかけて繁殖や営巣の期間であり、営巣木の確実な保全の他、この期間の森林施業については極力控えることが望ましい。

② ヨナグニマルバネクワガタ：国内希少野生動植物種、絶滅危惧ⅠA類

固有亜種で生息地は与那国島のみ。乱獲及び生息・繁殖木の減少が主な原因で生息数が激減した。オキナワジイを生息・繁殖木として利用するため、与那国鳥獣保護区内の生息地に残るシイについては、造林事業の際に極力保全してもらうほか、造林事業の際の植栽樹種の選定の際にも、一部をシイに変更できないかと与那国町と調整を開始している。

(報告者：八重山農林水産振興センター 比嘉、井口、砂川)

